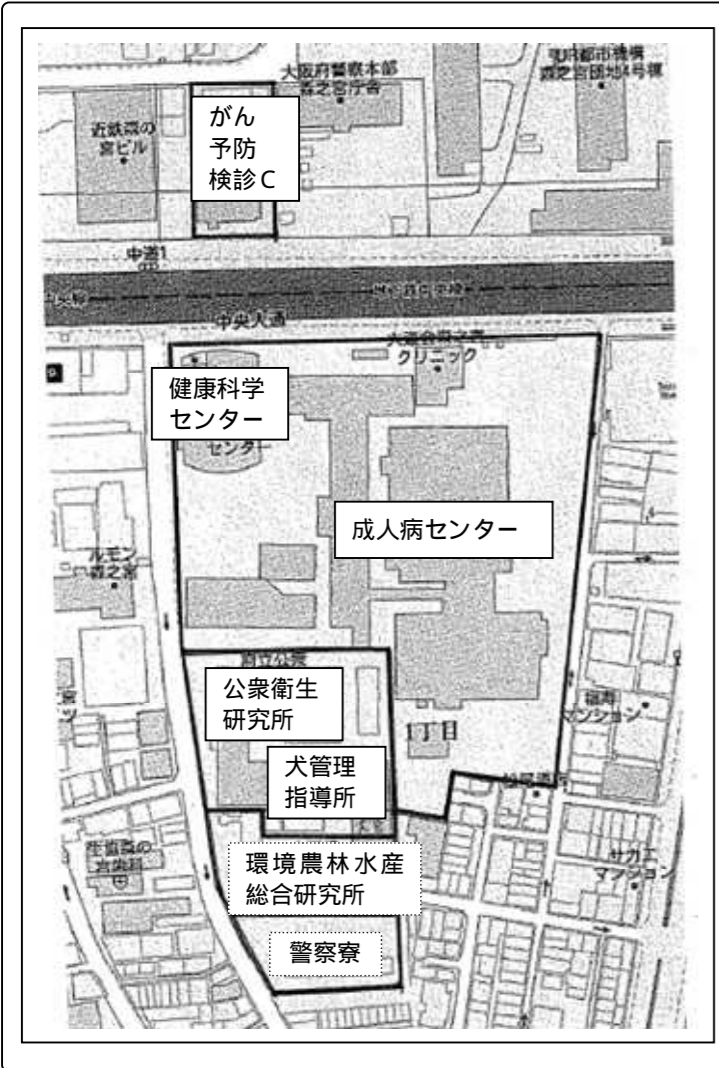


成人病センター等の整備について

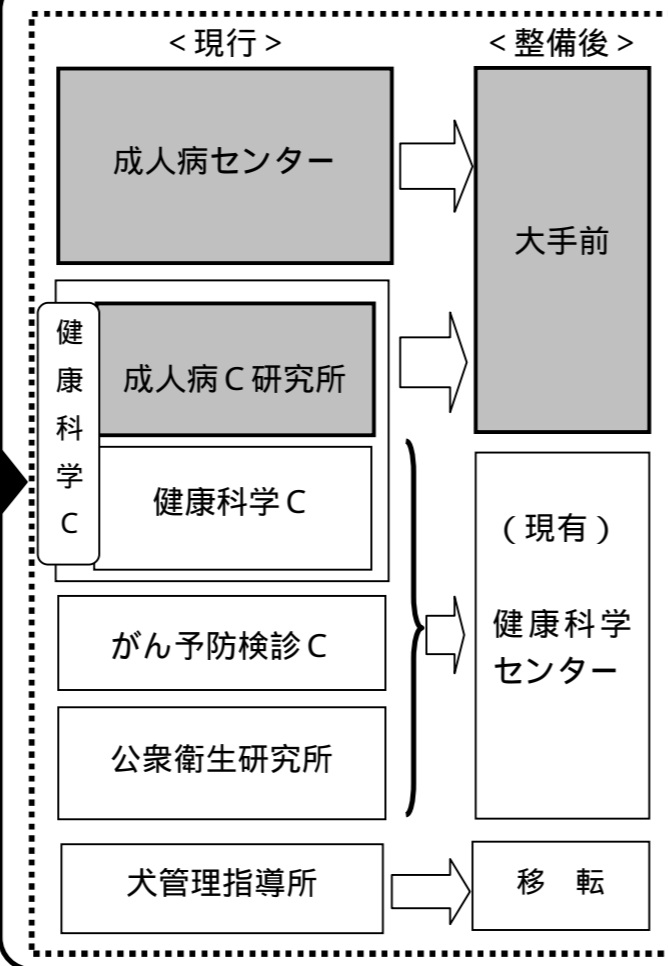
現況図（森之宮健康ゾーン）



移
転
案

現
地
建
替
案

- ・成人病センター（昭和40年築）
- ・公衆衛生研究所（昭和34年築）
- ・犬管理指導所（昭和48年築）
- ・健康科学センター（平成13年築）
- ・がん予防検診センター（昭和62年築）



大手前地区のうち成人病C用地として約1.2haを確保

スケジュール

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29
成人病C同研究所		構想・設計等 36ヶ月			工事 30ヶ月		H27.3竣工		
公衛研がん検		構想	設計等 24ヶ月			改修工事期間		H27.4以降 健科Cへ移転	

整備期間 5年半
整備費(超概算)

一般会計負担総額	309億円
(交付税を考慮した場合 207億円)	
(整備費内訳)	
・成人病センター整備費	341億円
・用地取得費	116億円
・健康科学C研究所等取得	32億円
・公衛研、がん検移転費	25億円
・犬管理指導所整備費	12億円
小 計	526億円

成人病センター
【現在】51,991㎡
(延床は本館・病院棟のみ)

公衆衛生研究所
環境農林水産総合研究所の移転跡地へ移転

犬管理指導所は移転

がん予防検診Cは、健科Cへ移転



スケジュール

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
成人病C		構想・設計等 39ヶ月			1期工事 28ヶ月		27年3月1期工事完成	2期工事 36ヶ月		30年3月全体工事完成
公衛研 環農総研 犬管所		設計等		工事等						
土地売却										売却30年度以降

整備期間 8年半
整備費(超概算)

一般会計負担総額	255億円
(交付税を考慮した場合 174億円)	
(整備費内訳)	
・成人病センター整備費	363億円
・公衛研整備費、がん検移転費	45億円
・犬管理・環農総研移転費	35億円
小 計	443億円

・センターが果たすべき役割

《ミッション》

がんの征圧 ~がん医療の基幹病院としての先導的役割を發揮~

《役割》

- ・府のがん対策推進の中心的役割
- ・がんと循環器の高度先進医療の実践
- ・府域のがん医療水準の向上

・備えるべき機能

~“がん医療日本一”を目指す~

1. がんと循環器の集学的医療の推進
2. 放射線・遺伝子治療などを活用した難治性・進行性・希少がん医療の充実
3. 人材育成・技術支援機能の強化による府域のがん医療水準の均てん化
4. 新しい診断・治療法の開発、がん情報の収集・評価・提供、府医療施策への提言
5. がん患者や家族に対する支援機能の強化

・新病院のイメージ（想定）

(1) 想定する施設規模

- ・病床数：500床（現行どおり）
- ・延床面積：65,000㎡
（病院60,000㎡ [現行50,000㎡]、研究所5,000㎡）

(2) 建設場所 / 手法の検討

- ・建設場所：大手前地区（1.2ha）を念頭
現地建替案と移転案について『工期』、『整備費』を比較検討

	【移転案】	【現地建替案】	【移転案のメリット】
整備期間	約5年半	約8年半	約3年短縮
整備費（超概算）	約340億円	約360億円	約20億円安価

整備費には、最先端医療機器整備費約50億円を想定。

- ・事業手法：PFI手法と従来手法で比較検討（整備費はPFI手法を念頭）

《府民からみたメリット》

1. 高度先進医療の推進による『難治性・希少性がん』等に対する治療成績の向上
 2. 治療技術の均てん化による『5年生存率』の向上
 3. 施設機能の拡充による『検査・手術待ち』の解消
- 移転案により早期に実現。工事による診療機能への影響も回避

・基本構想での検討項目（イメージ）

(1) 備えるべき機能

- ・がん医療の動向を踏まえ、今後センターが重点的に取り組む分野を整理

(2) 施設規模

- ・類似病院を参考に具体的な施設イメージ（面積、機能）を精査

(3) 整備手法及び工事費

- ・施設規模や敷地条件を踏まえ、PFI手法と従来手法を比較検討

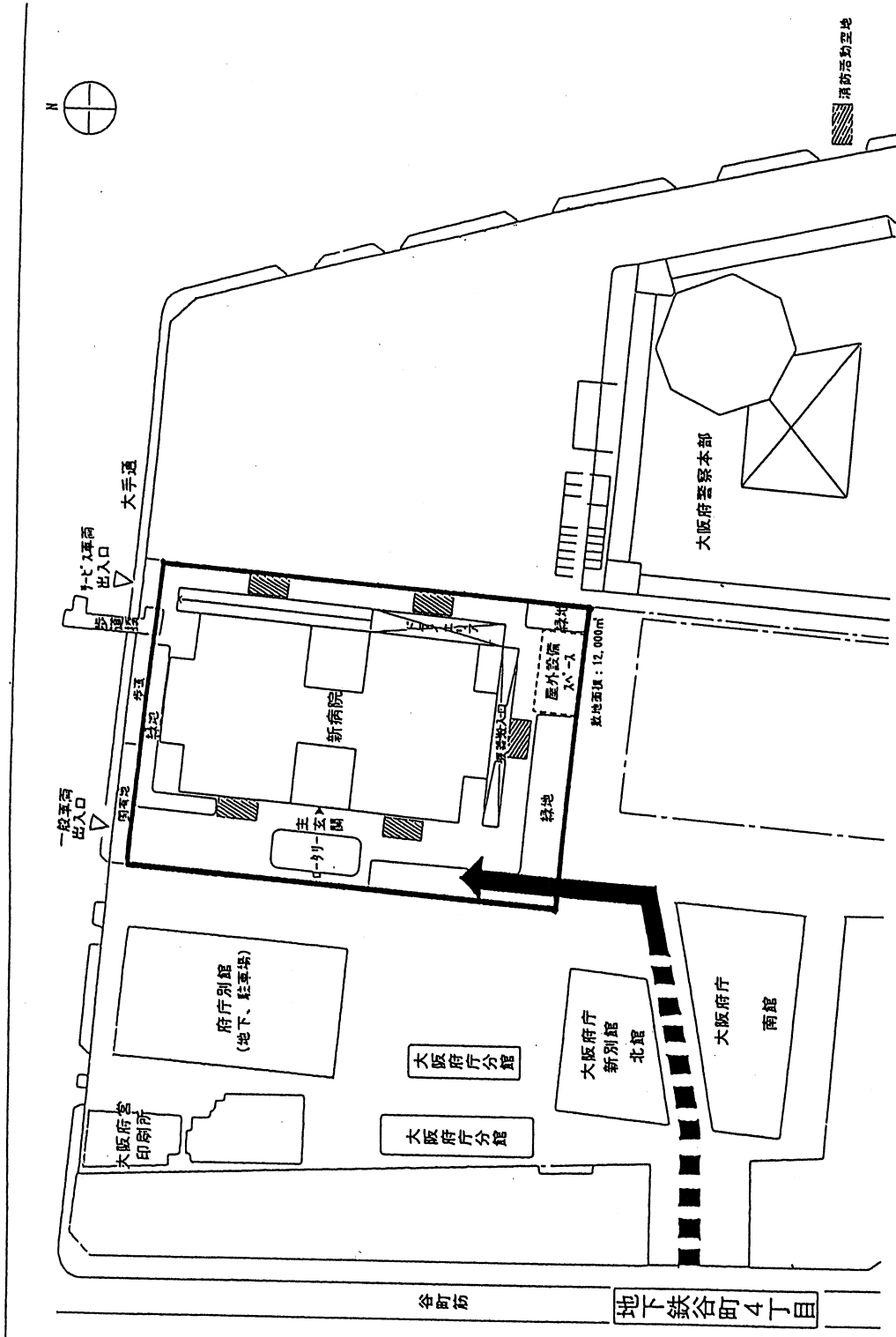
(4) 長期収支の分析

- ・20年度の決算状況や今後の償還負担を踏まえ、機構の収支を推計

新病院の配置イメージ

新病院の断面構成(イメージ)

PHF	電気室	
14F	研究所	
13F	機械室	
12F	病棟／ナースステーション	
11F		
10F		
9F		
8F		
7F		
6F		手術機械室／病棟／講堂／機械室
5F		手術室／ICU／CCU
4F		がん予防情報C／管理部門(医局、事務局、看護部)
3F		検査部／外来化学療法
2F		核医学検査(RI)／画像診断部
1F		検査部／医事事務／一般外来等
	⇒主玄関	
B1F	薬剤部／SPD(中央倉庫)／医療情報部	
B2F	放射線治療部／機械室	



※この図はあくまでもイメージ(各方面未調整)のため、各部門配置については大きく変動する。

※建物の諸条件(いずれも想定)

- 病床数 500床
- 延べ床面積 約65,000㎡(病院60,000㎡、研究所5,000㎡)を想定
- 建築面積 約5,000㎡を想定(各フロア面積)